

戸坂潤 以縁 評論家、哲學者。明治二十二年九月、二十七歳東京生れ、
 昭和二十年八月九日歿（一九〇一—四五）。號華嚴亭華城。大正十二年京都
 帝國大學文學部哲學科卒。昭和四年大谷大學教授、六年法政大學講師、
 翌年唯物論研究会創設に參劃、十二年治安維持法に檢舉、十九年下獄、
 終戦直前獄中死。『戸坂潤全集』全五卷（昭和四十一年—四十二年勁
 草書房）刊。

譯書、『イマヌエル・カント著『自然哲學原理』』（譯、昭和二年八月
 『二十の岩波書店）、『科學方法論』（昭和四年六月十日岩波書店『續
 哲學叢書』）、『唯物史觀序說』（合著、昭和五年二月十五日プロレ
 タリヤ科學研究所編輯、鐵塔書院發賣）、『イデオロギー論』（合著
 ・理想社編、昭和七年七月十日理想社出版部）、『技術の哲學』（昭
 和八年十一月十日時潮社）、『日本イデオロギー論』（昭和七年七
 月五日白揚社）、『科學論』（昭和十年十月十八日二宮書房『唯物論
 全書』。再刊、二十九年二月十五日社會思想研究会出版部『現代教養
 文庫』）、『思想としての文學』（昭和十一年二月二十日二宮書房）、
 『道德論』（岡邦雄共著、昭和十一年五月二十日二宮書房『唯物論全
 書』）、『自由主義とは何もの』（合著、昭和十一年五月二十日白東洋
 經濟新報社編輯）、『思想の風俗』（昭和十一年十一月十日二宮書
 房）、T. S. Bridges
 H. Hessel's Te Ctman 著『探險英雄傳』（譯述、昭和十一年十一月
 十五日改進社。山田坂仁共譯）、『現代日本の思想対立』（昭和十一
 年十一月十七日今日の問題社）、『世帯の一環としての日本』（昭和十
 一年四月一日白揚社）、『認識論』（山岸辰藏共著名義、昭和十一年
 十月十五日二宮書房『唯物論全書』。山田坂仁共）、『讀書法』（昭

和十二年一月一日(二)笠書房、再刊(二十一年七月十五日、二十二年十

二月十五日「現代叢書」)、^{田辺元}『日本イデオロギー論』(昭和五十二年

九月十六日岩波書店「岩波文庫」)等。

文献、(一)書房編集部編『回想の戸坂潤』(昭和二十二年十月、二十五

日(二)書房)、^{岡田元}『~~岡田元~~他著』『回想の戸坂潤』(昭和五十一年十一月)

十日笠書房)等。